

陸軍

「ミンドロ」島の於ける作戦の概況

第一章 作戦準備の状況

第一款 米軍上陸前には防衛状況

一、一九四四年初期第十六師団の警備

一九四四年初期に於ける「ミンドロ」島の警備は第十六師団に属する捜索第十六聯隊之下に在る要地の警備と擔任せり

又航空部隊より若干の人員を派遣し「カラス」及「サンホセ」に不時着陸場を整備す

二、第十六師団の一部の防衛

第十六師団編成せられたる「ミンドロ」島の警備は同師団の擔任となり同師団の獨立歩兵第三百五十九大隊の指揮に歸せり。臨時に兵二箇中隊と一九四四年六月下旬「ミンドロ」島に派遣し捜索第十六聯隊と

交代せしめたり

航空部隊の一部は依道前記の如く「カニン」及「サンホー」に在りて飛行機の整備に任す

三 第八師団の防衛

一九四四年九月第八師団の比島到着に伴ひ第百五師団と呂宋島西南部の防衛と交代し「ミンダナオ」島及び「ルパン」島は第百八師団の防衛地区とされるも前記の臨時歩兵三中隊は依道前任務を継承し第八師団長の指揮に入り直接歩兵第十二聯隊長の指揮と受くるとなれり「レイテ」作戦の開始せらるるや同島に派遣せられたる石田中隊（兵力約二〇〇）は「ボラー」附近に於て米機の空襲を受け飛船沈没せしむるも同島の上陸し臨時第二中隊長の指揮に入れり

又一九四四年十二月十五日米軍の「ミンダナオ」島上陸に伴ひ

第八師団より斬込隊（幡谷少尉指揮百十名）と派遣し米軍飛行場の斬込に用ぜしめたるも第十四方面軍は呂宋島に作戦を重要視せると以て爾後部隊を派遣することなく既述の臨時歩兵二中隊（難一中隊）斬込隊及一部の航空部隊を以て爾後の作戦に任ぜしめたり

第二節 大軍上陸時に於ける作戦進備の状況
 一 部隊の編成・装備及訓練

臨時歩兵二箇中隊は當初在シンガポール第一師団の要員としてマニラに到れるも當時の状況を鑑み左記の如く編成せられて第五師団の獨立歩兵第三百五十九大隊長の指揮に入り七月下旬「ミンダロ島及「ルパン」島に派遣せられたり

部隊の幹部は豫後備の召集兵らより兵は補充兵

下にて教育の種々不十分且装備も小銃も極少
数の手榴弾も有するのみにして軽機関銃、擲弾
筒も有せず十二月に至り九六式重機関銃一と中隊に
交付せられたるは運用も出来ざる状態にあり
上工器具も亦現地製の不完全なる圓匙及十字鋸と少
数有するに過ぎず、通信は飛行隊の無線に依頼して
と利用せり

左記

臨時第一中隊

中隊長 陸軍中尉 西矢政雄

指揮班及三小隊より成り 總員約一八〇名

臨時第二中隊

中隊長 陸軍中尉 蘆野慎平

指揮班及三小隊より成り 總員約一八〇名

陸軍

二部隊の配備及施設

臨時二箇中隊は一九四四年七月下旬ミンダナオ島及びルパン島の到着し、概ね別紙要圖の如く配備を就き主として駐屯地

の治安維持敵飛行場及主要生産施設等の警備に任

たり

一九四四年十二月に亘るに對米作戦準備として施設

の認むべきものなる守備地は若干の散兵壕を設け、した

るに、保層彈薬は種々の少數にして糧秣は約一ヶ月

に保層せるも持久稼働を豫想せらるる地は日本河等、施

設より警備にあらず

飛行場は不時着陸場として施設し、少數の勤務員

と警備隊の一部之を警備下に任じありたるに過ぎず

陸軍・防衛省

三 邦人の状況

邦人の多くは農務、造船、及びコブラの購買等に従事し、
「カレン」・「ボンガボン」の於ては造船及製材の「ロアマヤン」・「サシヤン」
に於ては「コブラ」の購買及「ヒム」製塔に従事する者若干名
ありたり。

四 「インド」島の概況

島内には「ヒサヤ」族「ガロ」族居住しあり、日本軍駐屯地附
近の治安は概ね良好なり。

山地は一般に熱帯性の森林に、海軍方面の平地に於
ては住民は主として米、玉蜀黍、「バナナ」椰子等と栽培し
土人は玉蜀黍と常食としあり、経済は華商之と主掌
しあるもの如く、天候は一般に低級なり、「マウリヤ」又は核付
住民間の相争の憂は甚しあるものあり。